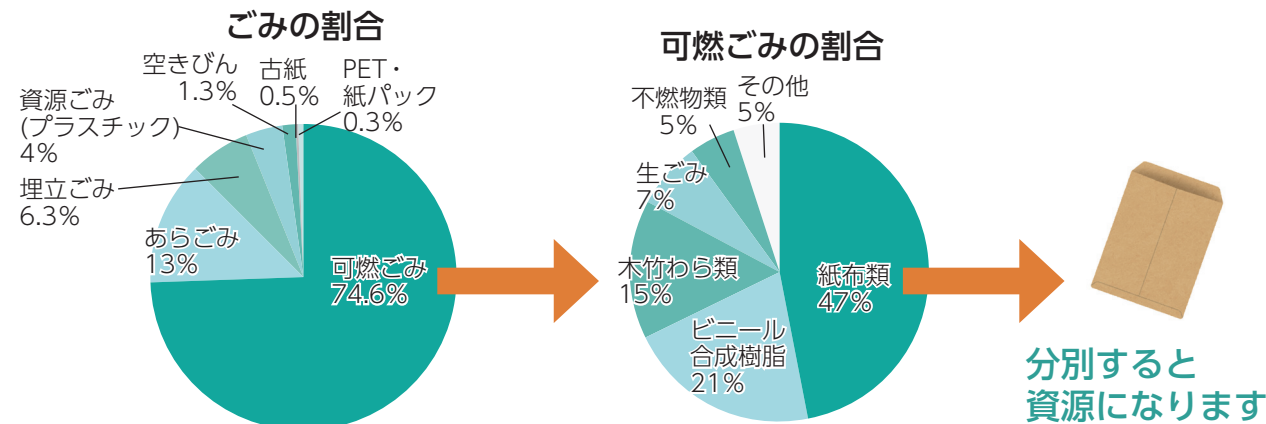


Recycle(リサイクル) —資源として再利用する—

新聞紙、雑誌、空き缶、飲料用や食用のびん、紙パック、ペットボトル、小型家電などはリサイクルできます。

また、可燃ごみの半分は、紙や布類で、リサイクルできる雑紙が多くごみとして捨てられています。包装紙や空き箱、封筒などを古紙回収に出すことで、資源として活用でき、可燃ごみも減量できます。



正しい分別をしよう

ごみとして捨てられているものの中には、まだまだ使えるものもあります。資源プラスチック、ペットボトル・紙パック、古紙、小型家電などは資源として活用するためにリサイクルしていますので、下記の分別区分を守って出してください。

ごみの分別でお困りの際は、(市)環境課(☎83-2608)に問い合わせてください。



ごみの分別区分

分別区分	主な品目
可燃ごみ	生ごみ、紙くず、衣類、かばん、靴など
資源プラスチック	トレイ、卵パック、菓子袋、発泡スチロール、ポリバケツ、プランター、ハンガーなどのプラスチック製品など
あらごみ	空き缶などの金属類、自転車(電動アシスト自転車はバッテリーを外す)、はさみ、植木の剪定枝(木は紐でくる)など
埋立ごみ	陶器、寝具、カーペット、キャリーバック、プランターの土、小型家電など(蛍光灯、電池などは別袋に入れる)
ペットボトル・紙パック	ジュース・酒・しょうゆなどのペットボトル 牛乳・ジュースなどの紙パック(内側がアルミコーティングされているものは可燃ごみ)など
古紙	新聞、折り込みちらし、雑誌、本、段ボール、雑紙(包装紙、空き箱、封筒など)
空きびん	コーヒー、洋酒などの飲料用のびん、酢・ジャムなどの食用のびんなど

小型家電の分別について

小型家電(電話機、携帯電話、デジタルカメラ、電卓など)は、市立公民館、市役所、ホームセンターナフコ三木店(大村1丁目8-15)に設置している小型家電回収ボックス(投入口12cm×30cm)でも回収しています。



市の年間のごみ処理量は約2万8千tに上ります。処理費用は年間約12億円(1人当たり約1万5千円)です。家庭から出るごみは年間約1万9千tで、1人1日当たり669gのごみが発生しています。これは県内41市町で7番目に多い量です。

ごみを減らすことは、地球温暖化につながる温室効果ガスの排出の抑制や、ごみ処理費用の軽減にもつながるため、さらなるごみの減量化が求められています。

人にも地球にもやさしい環境づくりのためには、使い捨てではなく、ごみを資源として活用することが大切です。

今回の特集では、ごみの減量と分別について一緒に考えてみましょう。

🌿 ごみを減らすために私たちにできること 🌿

3Rの実践 3Rを実践することでごみを減らすとともに、資源として活用できます。

Reduce(リデュース) —ごみを減らす—

- ・マイバック、マイボトルを利用する
- ・詰め替え用がある商品を選ぶ
- ・賞味期限の近いものから使う



水切りをする

可燃ごみには約40%の水分が含まれています。特に、生ごみは80%が水分です。野菜の不要な部分は洗う前に取り除く、食用油は固める、水分の多いものは水切りをしてから出すことで、ごみの減量につながります。

Reuse(リユース) —使えるものは繰り返し使う—

- ・修理して使う
- ・必要な人に譲る
- ・リサイクルショップやフリーマーケットサービスなどを利用する



ごみカレンダーとごみ分別アプリを利用してください

2022年のごみカレンダーを自治会などを通じて配布します。ごみカレンダーには、ごみの分別方法やごみ出しマナーなどを掲載しています。また、スマートフォンアプリ「三木市ごみ分別アプリ」では、ごみ分別辞典と出し方、収集日を知らせてくれる機能があります。詳細は、市ホームページをご覧ください。



▲ごみ分別アプリの詳細はこちら

